



ステップ5：働きかけに反応する活動。

ステップ6：ひとつの目標に向かって、各係が働きかけあいながら行う活動。

この「ステップ4」の段階に、「つくった物で働きかける」とあります。「ものづくり」はこの段階にあたりと考えています。

ものをつくることによって、子どもたちの活動に活気が出ますし、係と学級の仲間の間に関わり合いが生まれます。

係活動のスタート時は係のメンバーの主観での活動でも構わないのですが、やはり「自分のたちの活動で学級の何かが変わっていく」という体験を積ませる必要があります。

そのために、この「ものづくり」は大変大きな意味を持っています。

---

## 2 学級通信を考える～その24：イベントを書く

山口市立平川小学校 梶田崇晴

---

学級活動の中で最も子どもたちに人気があるのがイベントです。このイベントは学級通信を書くのに大きなネタとなり得ます。

ただし、次のように書いても駄目です。

「今日ドッジボール大会をしました。学級の全員を3つのチームに分け、試合をしました。結果はBチームの優勝でした」

このようなことは、子どもたちの口から保護者に伝わるものですから、わざわざ書く必要はありませんね。

それぞれのイベントには「企画→準備→実践→反省」というサイクルを通した様々な子どもたちの活動があります。それを学級通信で紹介していくのです。それらを連載形式で書いていけば、かなりの号数をかさねられますし、また自分自身の実践記録にもなります。

イベント活動は「授業」です。「イベント活動」と単なる遊びの違いは、教師の意図的な活動であるかということです。イベント活動を通してぜひ身につけさせたいものなどを教師が意識しておくことが必要ですので、それらをさりげなく紹介していくことも大事なことです。

イベント活動を学級通信に書くというのには、2つのねらいがあります。

一つは、子どもたちの様子を保護者に知らせることです。もう一つは、特別活動というものの存在を保護者に知らせるとともに、特別活動は遊びじゃなくてきちんとした学習活動であるということを知ってもらうということです。

それによって、保護者の方々に「特別活動って遊んでばかり…」という間違っただけの認識を改めてもらうこととなります。

特にこの2つめのねらい、大事にしたいですね。

-----  
3 第5回「希望の会」学習会in福岡 報告 その1

宗像市教育委員会 脇田哲朗  
-----

第5回「希望の会」学習会のお世話をしてくださった福岡の脇田先生が、希望の会のメーリングリストにその報告をされました。

このたび、転載許可をいただきましたので、2号に分けて紹介させていただきます。

9月1日、第5回「希望の会」研究会を開催しました。本大会の世話人をさせていただきました脇田でございます。今回の研究会の第一次報告をお礼とともにさせていただきます。

以下に、その日の研究会の様子をプログラムに沿ってお伝えします。

■ 開会行事

今村信哉「希望の会」世話人代表のごあいさつと、中川昭則、第5回「希望の会」九州・沖縄地区大会の世話人代表の歓迎のあいさつがありました。

※本大会は、これまで「希望の会」が大切にされてこられた研究会のスタイル、「調査官からの問題提起とそれ受けてのシンポジウム」、「参加者全員が課題について意見を述べる分科会」、そして「調査官のまとめの講話」という形式を踏襲してプログラムさせていただきました。

■ 問題提起及びシンポジウムについて

杉田調査官から、「5名のシンポジストが順番に考えを述べる型のシンポジウムでは面白くない、シンポジスト同士、参観者同士、シンポジストと参観者間に対話が生まれるシンポジウムにしよう。」という提案があり、それを受けてのシンポジウムになりました。はじめに、調査官から「今の子どもたちは、昔の子どもたちに比べて育っていないのか？」の問いから始まる7つの質問が、シンポジストと参加者に投げかけられ、全員がYesかNoで答えました。この時点で、シンポジストにも参観者にも緊張感と一体感が生まれました。この7つの質問項目一つ一つに、それぞれ考えさせられるものがありましたので、後日、お知らせします。

次に、シンポジストに「社会に参画する力とは？」、「自治的能力とは？」という問いかけがあり、それをシンポジストがキーワードで解答しました。

まず、福岡県の清末孝宜会員は、社会参画＝「実践力」、自知的能力＝「決めることができる力」、次に、佐賀県の西川記世会員は「企画、運営、実行する力」、「自立（の形成要因の一つ）」、山口県の梶田崇晴会員は、「組織的に活動する力」、「新しい考えを生み出す力」、埼玉県の船田敦史会員からは、「計画、企画する力」、「自

治そのもの」、宮城県の八巻寛治会員からは、「向社会性を育む力」、「人間関係形成、維持」というワードで解答がなされました。その後、それらの内容について杉田調査官から、第2、第3のするどい質問が投げかけられるという展開でした。会場には、いつしかピーンと張り詰めた空気が漂っていました。それにしても、シンポジストの先生方はさすがに、各地で特別活動の実践研究を積んでおられる先生方です。杉田調査官の鋭い質問にも臆することなく、堂々と自分の考えを語っていただきました。あっという間の70分でした。清末さん、西川さん、梶田さん、船田さん、八巻さん本当にお疲れ様でした。先生方のお陰で、実に質の高いシンポジウムになりました。予定が急遽変更してしまいましたが、さわやかにシンポジストをお勤めいただき感謝いたします。

本日は、ここまでの紹介とさせていただきます。

明日は、120余名の参加者で当初の分科会数が5分科会から9分科会に変更となった分科会についてお知らせします。

ファシリテータをお願いした、熊本県の平野会員、千葉県の寺嶋会員、福岡県の大久保会員、野口会員、池田会員、そして、急遽、この日にファシリテータをお願いした、西川会員（佐賀）、清村会員（熊本）、黒澤会員（福岡）、宮崎（福岡）会員本当に有難うございました。先生方の進行のお陰で、参加された方々の充実感が高まりました。有難うございました。

長々と失礼しました。それでは、明日、第二段の報告をさせていただきます。

有難うございました。

---

#### 4 メルマガ編集部からのお知らせ

---

##### ◆次号の予告◆◇◆

第45号は9月中旬過ぎに発行予定です。

次号は、係活動の意欲を喚起するというので、「イベント活動」についてお送りする予定です。

##### ◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は174名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

##### ◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。先生方が取り組んでおられるミニ実践を紹介してください。

本メールマガジンでは、年間を通じて、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

- 4月頃 出会いの演出・新学期の学級経営
- 5月頃 連休明けの学級経営のポイント
- 6月頃 室内でできる簡単イベント
- 7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ
- 8月頃 子どもとのつながりを考える
- 9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み
- 10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて
- 11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり
- 12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり
- 1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす
- 2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ
- 3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知票

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

＝＝＝  
山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

＝＝＝